

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 27 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	小中学校給食備品整備事業					
2 担当課名	教育庶務課		担当者名		山下昌宏	内線 4105
3 予算科目	会計		一般会計		会計	
	款	10	教育費		款	10
	項	2	小学校費		項	3
	目	1	学校管理費		目	1
	大事業	6	小学校給食事業		大事業	6
	中事業	0			中事業	0
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額		17,755,200円		予算額 8,877,600円	
	決算額		17,215,200円		決算額 8,607,600円	
	主な支出 (科目、金額)	施設用備品 17,215,200円		主な支出 (科目、金額)	施設用備品 8,607,600円	

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	小中学校児童生徒の給食において、衛生面の安全を確保するため真空冷却機を整備した。
6 事業の目的、効果	現在、和え物の調理方法として冷水（水道水）で冷却している。食中毒菌の増殖する時間帯が長くなり衛生的に問題があり以前から保健所の指摘を受けているため、真空冷却機を設置し衛生的な環境を整備することとした。真空冷却機を導入したことにより、食中毒菌の増殖する危険な時間帯が短縮できたことで衛生的な調理が可能となり、安心安全な給食の提供に大きな効果があった。また、これまで冷水で冷やしていた人員が不要になったことにより、調理時間が削減され作業の効率化が図られた。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	学校給食の衛生面については、今後も厳しくなってくる傾向にあるため、状況に対応できるような機器の整備が必要になってくると思われる。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	②現状維持	給食備品については、機器的な面はある程度整備されており、安心安全な環境が整備されている。しかし、備品数が多く改修設備費用が高額となるため計画的に整備していく必要がある。
9 事業の問題点	安心安全な学校給食の提供のため早急な整備が必要である。また、機器が高額なため計画的な財源の確保が必要となる。	

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 27 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	特色ある学校づくり推進事業					
2 担当課名	学校教育課	担当者名	丹羽義男	内線	4200	
3 予算科目	会計	一般会計	款	10	教育費	
	大事業	11	特色ある学校づくり推進事業	項	1	教育総務費
	中事業			目	3	教育指導費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	16,255,000円		決算額	16,406,020円	
	主な支出 (科目、金額)	報償費	620,000円			
		役務費	369,820円			
		委託料	15,416,200円			

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	児童生徒の「生きる力」を育むために行うもので、各学校から特色ある教育活動の計画を募集し、必要となる諸経費を委託料として支給する。各校への委託料は、「均等割(25万円)+児童生徒数割(一人につき300円)+評定加算」による配分とし、評定加算については、加算を希望する学校の計画書を選考委員会が選考し、10校に対して各20万円を加算している。
6 事業の目的、効果	本事業は、市内小中学校に対して、地域の人材や教育的資源などを生かした教育活動や、今日的課題の解決に向けて取り組む教育活動を支援することを目的としている。例えば、西野町小の全校茶会や御殿万歳の継承、室場小のホタルにかかわる活動、白浜小の地域と連携した防災教育など、各学校で独創的な教育活動が展開されて、学校の活性化が図られている。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	今後も学校と地域の関係は、ますます重要なものとなっていくことが予想される。それぞれの学校が地域の特色を生かし、独自の活動を行う場合、それに係る経費の面から支援していく事業は、今後も必要である。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	②現状維持	学校が地域の自然や人材、学校の特色や伝統を生かした教育活動を展開していくことは、今後も継続すべきと考える。
9 事業の問題点	委託料の配分方法について、公平性の点から、評定加算をなくしてその分を均等に配分すべきという考え方がある。一方で、選考によって評定加算する方法をとることで、より充実した質の高い活動計画が期待できるという利点もあるため、検討すべき課題となっている。	

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 27 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	青少年健全育成事業（青少年健全育成市民大会、少年愛護センター事業）					
2 担当課名	生涯学習課	担当者名	論田清高	内線	55-3515	
3 予算科目	会計	一般会計	款	10	教育費	
	大事業	1	青少年健全育成事業	項	5	社会教育費
	中事業	0		目	2	社会教育総務費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	1,349,000円		決算額	1,086,475円	
	主な支出 (科目、金額)	謝礼	626,500円	保険料 (少年愛護)	64,500円	
		消耗品費 (市民大会)	79,800円	会場借上料 (市民大会)	68,800円	
		印刷製本費 (市民大会)	99,900円	バス借上料 (市民大会)	73,440円	

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	<p>青少年のための健全育成事業と非行防止活動</p> <p>概要：青少年健全育成市民大会…「社会を明るくする運動」（福祉課所管）と合同で毎年8月後半に文化会館大ホールで開催し、市内の中学生や教育・福祉関係者など約1,000人が参加。内容は、市内10中学校の生徒の代表が日頃感じていることなどを発表する「少年の主張」や更生保護に関するビデオ上映を実施。少年愛護センター（錦城町・中央ふれあいセンター内）…西尾市少年愛護センター運営協議会、少年補導委員全体会の開催（毎年7月上旬）、少年愛護センター運営協議会委員による青少年の非行・被害防止キャンペーンの実施（毎年7月上旬、シャオ出入り口周辺）、少年補導委員（215人）による街頭補導活動（駅、スーパー、ゲームセンター、ドラッグストア、コンビニ周辺など）</p>
6 事業の目的、効果	<p>青少年の健全育成や非行防止を目的に青少年健全育成市民大会を開催したり、少年補導委員による街頭補導活動を行ったりして、地域ぐるみで家庭教育の活性化、非行防止、環境浄化などに努めている。</p> <p>青少年健全育成市民大会では、「少年の主張」や更生保護に関するビデオ上映を行って会場の多くの生徒などに直接訴え、感じてもらう効果がある。</p> <p>少年愛護センターの街頭補導活動は、市内の繁華街を見回り、店などとも連携が取れるようになり、非行の抑止効果があると考え。</p> <p>27年度実績 補導活動実施回数236回、延従事者591人 うち少年への声かけ対応（活動日報記録分）…13回（スーパーやコンビニに複数でいた中高生・未成年、駅トイレで喫煙していた少年など。うち交番へ連絡1回）</p>

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	<p>青少年の非行の原因については、青少年自身の素質、家庭環境、交遊関係、社会環境等のいくつかが相互に結びついたものといえ、とりわけ、精神的発達の未熟な青少年に対する社会環境の影響は、極めて大きいといえるため、その変化が青少年の健全育成に影響を及ぼすおそれがある。</p>
8 今後の事業の方向性	<p>方向性</p> <p>左の「方向性」を選択した理由</p>
	<p>②現状維持</p> <p>本事業は、継続的な活動が必須であり、地域や各種団体の協力を得ながら地域社会が一体となって取り組む必要がある。</p>
9 事業の問題点	<p>青少年健全育成市民大会をより充実したものにするために、中学生が良い発表をしてくれるので、できれば、多くの一般市民にも事業への参加を呼びかけ、客席（1,217席）が満席になるくらいにして、青少年健全育成の取り組みを知ってもらいたい。これを課題（問題）と捉え、対策として広報やホームページ以外の周知方法も考えたい。</p>

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 27 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	にしお駅伝フェスティバル2015					
2 担当課名	スポーツ課	担当者名	杉浦吉彦	内線	54-0002	
3 予算科目	会計	一般会計	款	10	教育費	
	大事業	05	スポーツ大会開催事業	項	06	保健体育費
	中事業	00		目	01	保健体育総務費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	3,000,000円		決算額	3,000,000円	
	主な支出 (科目、金額)	報償費	827,884円	使用料及び賃借料	2,172,116円	

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	小学生からシニア（50歳以上）までを対象に6部門で、愛知こどもの国園内の周回コースをそれぞれ5区間、5人1チームでタスキリレーを行い順位を競う。その他にはフレンドリー部門があり、順位を競わず、純粋にスポーツを楽しむ部門を設置。
6 事業の目的、効果	スポーツの普及発展と競技力の向上、健康保持増進、運動意識の高揚、西尾市のPR、愛知こどもの国の利用促進、名鉄西尾蒲郡線の利用促進を図る。 徐々に、参加者が増加しており、また、入賞者の他に特別賞を設けることで、参加の楽しみも増している。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	マラソンブームであることから、参加者の増により、現在のコースでは、許容量に限りが出てくる。 安全性の強化、アクシデントに際しての迅速な対応が必要となる。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	①拡大	道路幅が狭いカ所や急な昇り坂、下り坂があるコースの見直し、上級者用にコースの延長、愛知こどもの国園外へのコース拡大。 地域の物産販売や産業・文化・観光の紹介コーナーの設置。
9 事業の問題点	真冬にもかかわらず、時期的に数々のマラソンや駅伝大会があり、参加者の爆発的な伸びは期待できない。	

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 27 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	資料館管理運営事業					
2 担当課名	文化振興課		担当者名	鈴木とよ江	内線	56-2459
3 予算科目	会計		一般会計		款	10 教育費
	大事業	1	資料館管理運営事業		項	5 社会教育費
	中事業	0			目	6 資料館費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	8,207,000円		決算額	7,728,174円	
	主な支出 (科目、金額)	委託料	6,787,452円			
		印刷製本費	675,216円			

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	市民をはじめとする来館者、将来の市民のため 西尾城のガイダンス施設としての展示解説施設であるとともに、西尾の歴史や文化を学ぶための展示活動、埋もれている史資料の収集、調査活動を行う。
6 事業の目的、効果	来館者に対し西尾城のガイダンス施設としての機能を果たすとともに、西尾の歴史や文化を学ぶための展示、資料の収集を行う。 来館者が、西尾城の事をはじめとする西尾の歴史や文化を少しでも知っていただくことで、西尾に興味を持ってもらうことができる。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	西尾市歴史公園の整備、資料館の再編などの事業を行い、また新たな展示方法などを取り入れることで、これまでの利用者のみならず、新しい客層の開拓が見込まれる。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	①拡大	市の公共施設再配置事業の中で、施設のリニューアルを図り、より多くの来訪者に親しみのある資料館であるよう努めていく必要がある。
9 事業の問題点	平成28年度から31年度までは全ての業務が直営、平成31年度からは再編による運営の変化が起るため、引き継ぎ部分と新たに行ってもらおうサービス、今後も市が直接おこなう収集・調査といった収蔵品管理部分との調整を進めていく中で新たな運営組織と市とがどのように情報の共有を図ることが課題（問題）である。	

教育委員会事業評価表

(評価対象 平成 27 年度)

○事業名及び予算額等

1 事業名	学校・子育て支援施設支援事業					
2 担当課名	図書館	担当者名	原田依子	内線	56-6200	
3 予算科目	会計	一般	款	10	教育費	
	大事業	6	図書館利用促進事業	項	5	社会教育費
	中事業	0		目	10	図書館費
4 事業費 (当該事業に関する部分のみ)	予算額	397,840円		決算額	386,090円	
	主な支出 (科目、金額)	報償費	106,000円			
		消耗品費	277,590円			
		通信運搬費	2,500円			

○事業の内容

5 事業の概要 (誰のために何を行うか)	子どもに、本を使って調べる方法やレポートの書き方を指導する「調べ学習応援講座」の開催や、図書館職員が子育て支援施設（幼稚園・保育園・児童クラブ・子育て支援センター等）に訪問し、おはなし会等を実施し読書推進をする。また、学校の授業や教科に関する総合学習資料の貸出（配送）及び希望する学校や子育て支援施設に定期的に図書の貸出を行う。
6 事業の目的、効果	子ども読書活動の推進のため、調べ学習の支援や学校及び子育て支援施設へ図書を貸出し、子どもの読書環境を整える。また、読み聞かせの推進のため、読書の楽しさや大切さを、子ども及び子どもと関わる教諭・保育士に伝えることで、図書の貸出冊数が増加し、子どもが本に親しむ機会も多くなる。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	インターネットの普及等もあり、子どもの読書離れや活字離れが懸念される中、幼年期の読書体験が成長後情緒面などに大きく影響すると考えられている。子どもの読書習慣に対する支援はいつそうの充実が必要と思われる。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	②現状維持	子どもが本から得られる喜びや体験ができるように、子ども読書活動推進計画を市全体で取り組み、実施方法等の見直しを加えながら継続実施する。
9 事業の問題点	子どもと接する教諭・保育士等へ子ども読書活動の重要性を伝えることや資質向上のための図書館職員の指導力の向上及び学校・子育て支援施設の読書環境がより充実することが必要である。	